

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 6 部門第 3 区分  
【発行日】平成22年9月9日(2010.9.9)

【公開番号】特開2009-59207(P2009-59207A)  
【公開日】平成21年3月19日(2009.3.19)  
【年通号数】公開・登録公報2009-011  
【出願番号】特願2007-226581(P2007-226581)  
【国際特許分類】

G 0 6 T 7/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 T 7/00 2 5 0

【手続補正書】

【提出日】平成22年7月22日(2010.7.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

識別対象と、識別境界に寄与するサポートベクタとの関係に応じた関数値を算出し、  
各サポートベクタに対する前記関数値を積算した積算値を算出し、  
前記積算値が閾値よりも小さい場合に、前記識別対象が特定のカテゴリに属しないと識別するカテゴリ識別方法であって、

前記積算値の算出は、前記関数値が正の値となるものを積算し、その後、前記関数値が負の値となるものを積算することによって行い、

前記積算値が前記閾値よりも小さくなった場合、残りの前記関数値を積算することなく、前記識別対象が前記特定のカテゴリに属しないと識別する

ことを特徴とするカテゴリ識別方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のカテゴリ識別方法であって、

前記積算値に積算される前記関数値が負の値であるかを判断し、

前記関数値が負の値であり、且つ、前記積算値が前記閾値よりも小さくなった場合、前記識別対象が前記特定のカテゴリに属しないと識別する

ことを特徴とするカテゴリ識別方法。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載のカテゴリ識別方法であって、

負の値の前記関数値は、絶対値の大きいものから順に前記積算値に積算されることを特徴とするカテゴリ識別方法。

【請求項 4】

識別対象と、識別境界に寄与するサポートベクタとの関係に応じた関数値を算出し、  
各サポートベクタに対する前記関数値を積算した積算値を算出し、

前記積算値が閾値よりも大きい場合に、前記識別対象が特定のカテゴリに属すると識別するカテゴリ識別方法であって、

前記積算値の算出は、前記関数値が正の値となるものを積算し、その後、前記関数値が負の値となるものを積算することによって行い、

前記積算値が前記閾値以下になった場合、残りの前記関数値を積算することなく、前記識別対象が前記特定のカテゴリに属すると識別できないと判断する

ことを特徴とするカテゴリ識別方法。

【請求項 5】

請求項 4 に記載のカテゴリ識別方法であって、  
前記積算値に積算される前記関数値が負の値であるかを判断し、  
前記関数値が負の値であり、且つ、前記積算値が前記閾値以下になった場合、前記識別対象が前記特定のカテゴリに属すると識別できないと判断することを特徴とするカテゴリ識別方法。

【請求項 6】

請求項 4 又は 5 に記載のカテゴリ識別方法であって、  
負の値の前記関数値は、絶対値の大きいものから順に前記積算値に積算されることを特徴とするカテゴリ識別方法。